



1 積極的に取り組んでいる「コーヒー豆かすリサイクル」の仕組み
2 鮮やかなカラーリングが特徴の廃棄物収集運搬車輜
3 少量多品種の「適正処理」を支える、現場スタッフの熟練した技術力と経験
4 環境保全への真摯な姿勢と、創業78年の伝統が宿る玄関口

創業以来の確かな技術力 現場の知と先端技術を融合

三友プラントサービス(株) 代表取締役社長 小松 源氏

三友プラントサービス(緑区橋本台)は、産業廃棄物処理業を軸に、土壌汚染対策事業やエネルギー事業、プラント・エンジニアリング総合事業などを手掛ける環境総合企業です。大きく変化する市場を踏まえ、同社は国による中小企業の支援プロジェクト「100億宣言」に名乗りを上げ、2025年12月期の売上高は単体で87億4000万円(グループでは127億円)でした。社内では、基幹システムの刷新をはじめとしたデジタル化を推進するとともに、熟練工の経験をAIでデータ化する研究などDXにも積極的に取り組んでいます。同社の小松源社長にインタビューしました。

されておらず、『廃油の再生過程で出る残さなどが適切に処理されず川に流されていた現状を知り、それを解決するために創業者が廃棄物処理業を思い立った』と聞いています。その後、ご縁があった相模原市に移り、湿気に触れるだけで発火する『禁水性物質』といった、危険性が高く処理が複雑な少量多品種の廃棄物を引き受けるなどして、技術力を磨いてきました。こうした経緯から産業廃棄物に加え、引火性廃油や腐食性廃酸などの特別管理産業廃棄物にも対応できます。創業から78年という長い歴史の中で、当社は一貫し

1948年に創業した経緯や廃棄物処理業を立ち上げた背景について教えてください。

「静岡県熱海市で私の祖父である

創業者が廃油から水分とゴミを分離し、精製した油を銭湯などに燃料として販売していたのが原点です。当時はまだ廃棄物に関する法令が整備

て「適正処理」にこだわってきました」

■廃棄物処理以外ではどのような事業を展開していますか。

「コーヒー豆かすの資源循環事業です。大手コーヒーチェーンと協業して、店舗から排出されるコーヒー豆かすを回収後、乳酸発酵させて乳牛用の飼料へ資源化を行い、給餌した乳牛から搾乳されたミルクを店舗で使用、コーヒー豆かすリサイクル(資源循環)に注力しています。現在、さまざまな企業からご相談を受け、新たなコーヒー豆かすリサイクルの取り組みを進めています。また、オフィスから出るコーヒー豆かすを廃棄から資源循環へと変える取り組み『SAIKAI COFFEE for Office』なども積極的

に進めています」

■小松社長はシステムエンジニアやITコンサルタントの経歴をお持ちですが、社内のデジタル技術の活用状況はいかがですか。

「現在、約20年ぶりに基幹システムを刷新するプロジェクトが進行中です。新システムでは単なる業務効率化に留まらず、トレーサビリティの徹底、在庫管理の高度化、商社機能の強化も図ります。トレーサビリティでは、ドライバーや工場の受け入れ担当者が携帯情報端末を使い、廃棄物の引き取りから運搬、受け入れを記録・追跡することで、高いコンプライアンスを確保します。また、各拠点の廃棄物在庫の見える化や社内案件の一元管理により、お客様の適切な資源循環を支援します」

■現場の社員が持つノウハウや知見とデジタルをどう融合していきますか。

「当社の一番の強みは、現場で働く人財とその人が持つ技術力・経験です。特にベテランが焼却炉の炎の様子を見て燃焼具合を調整するといった暗黙知を、最新のAI技術でデジタル化する試みも始めました。もちろん、現場では実際に人が手を動かさなければできない作業もあります。アナログとデジタルをうまく使い分けながら、伝統的な技術を次世代へ確実につなげていくことが今後の課題です」

三友プラントサービス(株)

〒252-0132
相模原市緑区橋本台1-8-21
TEL: 042-773-1431
<https://group-sanyu.co.jp/>